

10 番 古川議員

古川議員／おはようございます。

議長より登壇の許可をいただきましたので、10 番 古川の一般質問をはじめさせていただきます。

きょうはまだ、御船が丘小学校からお見えじゃないみたいですが、さっそく、質問に入ります。

11 月の 21 日に武内小学校で行いました反転授業に対して、数件お尋ねをいたします。

武内小学校では、これまで、iPad の授業で効果的に授業を進められて、成果を上げられておられます。

毎年度、公開授業を実施していただき、県内外から 300 名以上の参観者をいただいております。

先生方の努力に対し、推進校として指導方法の提案ということに対しては、十分な成果が得られているものと考えております。

先月 21 日にこれまでの iPad の活用とは少し違った反転授業の公開が行われ、多くの教育関係者や、報道関係の参観を招いたところでございます。

子どもたちが iPad を家に持ち帰り、予習をしている様子がテレビで放映されました。

次の日は、新聞にも大きく取り上げられたところでございます。

そこで、今回、武内小学校で公開されました、反転授業とは、どのような授業なのかまずお尋ねをいたします。

議長／代田教育監

代田教育監／ただいま質問にありました、反転授業はいかなるものかということについて私のほうからご説明申し上げます。

スライドを見ていただきながら、ご説明させていただきます。

いわゆる、従来の授業と反転授業がどのように違うのかのご説明です。

一般的な学校の授業というのは先生が生徒に対して、講義をする、伝える、教える、というのが一般的です。

そして生徒は、その時間にわからなかったことや知識を定着させるために、家に帰って宿題、復習をするというのが従来の授業でした。

ところが、反転授業というのは、まず自宅で予習をします。

従来、自宅で予習する場合は、教科書読んでこいや、資料集を読んでこいというのがあったのですが、この反転授業が可能になったのは、タブレット端末を持ち帰って、動画やアニメーション、そういった、学習意欲のわくもので予習ができるのが大きなきっかけとなりました。

学校では何をするのか、というと、予め知識があるところ、わからないことを前提にして学校では教え合ったり、学び合ったり、話し合い活動を中心にやっていこう。

そういった授業スタイルを、反転授業と一般的に呼ばれてます。

この授業方法ですが、日本で公教育で取り入れるのは、武雄市で初めてになりますが、実は 2000 年からアメリカ、ヨーロッパ、オーストラリア等では、すでに取り入れられている学習方法です。

こういった学習方法が急激に普及し始めたのは、大きくは落第率の低下。

大幅に落第率が少なくなったという実証研究がなされたことが大きいと思います。

さらに、落第率にとどまらず、非常に学力の向上にも貢献するというものが実際の研究成果として認められてきた。

これが、大きな反転学習の効果だと思います。

では、なぜ、こういった学習方法が効果があがったのか、この図を見てください。

アメリカの国立訓練研究所というところが、人間の知識は、どのように定着しているか研究したラーニングピラミッド。

どうすれば記憶率が高まるかという図表です。

1 番上にいくほど、人間の定着率はなかなか定着しないという指導方法。

1 番定着するのは下になります。

一般的な記憶率は、5 %、100 人中 5 人しか定着しないのは、いわゆる先生から一方的な講義をするというのは、ほとんど記憶にないということです。

次は、ここはちょっとタブレットの有効ですが、動画とか、視聴覚教材で読む。

ここは定着率が 20% くらいまで上がります。

実験をしたり、劇的に半分を超えてくるのは、人と、人間は社会的な動物ですから、人と教え合ったり、学び合ったりする。

そうすると、急激に記憶が定着してきます。

そして最後に、1 番記憶が定着するのは、教えるほうです。

教えることの経験が、記憶が定着する。

ということで、よく反転学習をすると、できる子はどうなるんだ？という質問がありますが、できる子は、さらに記憶が定着するという効果も認められています。

武雄では、こういった教育先進諸国での知見をいかして、どのようにスタートするのかのお話を次にしたいと思います。

ふだんの学校の先生がどんなふうに学習指導要領をもとに授業を組み立てているかというのが、この図表です。

議長／静かに。

代田教育監／もう少し、おつきあいいただきたいと思います。

従来の授業は、学習指導要領に定められている…、まずは授業で、めあての確認をしましょう。

一人ひとりが目的を持って、自分で調べましょう。

そして、グループで話し合い、練習問題をやって、まとめて、次の予習の復習をしましょう。

こういったのが、授業のやり方です。

どうしても、従来の授業をしていると、学校でやってもまとめの時間とか、自習、次の時間にやることの時間がなくなってしまう。

どうしても現実問題で起こる、学校の課題でした。

復習の問題までなかなかいけない。

武雄での反転授業というのは、ここの従来、めあての確認とか、1人調べまでのところを、自宅でやって来ましょう。

なぜかというと、1人ずつ、学ぶスピード、理解するスピードが違うところ。

早く理解できる子、できない子もいる。

1人でやる所を家庭でやってこようというのが、武雄でやろうとしている反転授業です。

一人ひとりを限定として、学校では学びあい、教えあいをやり、さらに発展学習、予習でのめあて、こういったものをしっかりやって、家での復習もしっかりできるように、学習のサイクルを、もっと整えていこうというのが、武雄市の反転授業ということで、11月21日に

行った武内町の反転授業も、ここも家で。

動画で7分ぐらい。

そういうスタイルで始めています。

以上です。

議長／10番 古川議員

古川議員／教育監は、就任早々、ご答弁ありがとうございます。

反転授業、今図でわかったんですが。

どのようなことが、子どもたちにとって、社会にとって期待できるのか、その点をご説明をお願いしたいと思います。

議長／代田教育監

代田教育監／子どもたちにとっては、2つメリットがあります。

1つは、主体的、授業的に対して主体的に学びができるという効果です。

実際に、家庭学習、許可をもらって2人の子どもに聞きました。

この子が、なんといったか。

台形の面積の求め方が他にもあるのか、明日の授業が楽しみです。

ということで、こんな発言をしていました。

もう1つ、女の子の家庭ですが、分からないことはストップして、自分のペースで勉強できる。

動画ですので分からなければ止めれば良い。

そうやってじっくりできるので、マイペース学習ができるので良い。

そういうことをやって、授業に臨める。

意欲的に、主体的に、授業にのぞめる。

それが大きなメリットです。

授業では、話し合い、学びあいを行いますので、やりがいがあるということもたちの意見もあります。

もう1つの狙いが、21世紀のこどもたちに必要といわれるのが、共同的な問題解決能力とされています。

世界の教育機関は、これからのこどもたちには、共同的な問題解決能力、話し合いで意見を聞いて、自分の意見を持つ。

意見をみんなで高め合うことが、どうしても必要だというふうに定義されている力。

こういった力を、小学生、中学生のうちで、話し合いの時間を取ることで、基本的な共同的な問題解決能力。

こういったことを育みたいと思っています。

以上です。

議長／樋渡市長

樋渡市長／社会的なことについては、私からお答えしたいと思います。

公教育は今まで一律すぎた。

言ってみれば、金太郎飴ですよ。

金太郎飴に属さない、上のクラスの子どもさんとか、それについていけないお子さんとか、それが、今まで公教育から見放されていたとことがあった。

それが、代田教育監からあったように、きめ細やかにできる。

もう1つ大切なことは、家に戻って、くだらないテレビよりも、iPadで実際にタブレットで、お父さんやお母さん、おじいちゃん、おばあちゃんも一緒に見れるという効果。

それも大事だと思います。

一石十鳥くらいだと思います。

議長／古川議員

古川議員／iPad を家に持ち帰って予習をするわけです。

1人でやるので、分かる子、分からない子、出てくると思います。

学校でみんなで話し合って、解決が出来ればいいんですが、理解できない子どもに対する対応はどのように考えておられますでしょうか。

議長／代田教育監

代田教育監／今、ご質問にありました、どうしても家で予習ができなかったりとか、そういうお子さんは、出てくると思います。

このタイミングは、地域や家庭、そういったものを総ぐるみして、子どもたちを育てることが必要と思っていて、具体的には、放課後学習であったり、土曜日学習、こういったところで、地域の方々、教員志望の学生も含めて、いろんな方が予習をサポートする。

そういった社会的なセーフティーネットを確率することが、必要と思います。

実際にはそこまで確立していませんが、こういったセーフティーネットが必要と考えています。

議長／10 番 古川議員

古川議員／そのようなまとまりを、作るのにはそうとうな時間がかかると思うわけです。

そういうことも、必要であろうとは思いますが。

そういうことが早くできることを、願っております。

それから、予習する内容をタブレットで持ち帰るわけです。

それを、内容といいますか、タブレットを誰がつくるのか。

市販のやつを使うのか、それとも、学校の先生が作られるのか。

今、学校の先生、非常にいそがしいわけですね。

そういうつくる時間が、あられるのかどうか。

先生方の負担にならないようにしなければならないと思いますが、その点、いかがでしょうか。

議長／代田教育監

代田教育監／ただいまのご質問に関しては、11月21日に行った研究授業は、授業自体は、先生が主体的にコントロールするべきと思うので、どのような事前の動画をつくるべきかは、教員がコントロールしています。

ただ、作り込んでいるのはどういう人たちか、実際に理科は、ニュートンプレスという科学雑誌の専門誌、算数は塾が実際には作り込んでいます。

先生が動画までをつくっていたら、それは負担も大きいし、なかなか継続しないと思います。

そういった意味で言うと、こんな動画をつくってほしいというアウトソーシングしながら、一緒にそういった知見を持つ。

科学雑誌も塾も、素晴らしいコンテンツをお持ちですので、そういったものを修正しながらつくっていますし、来年度にあたっても、これを作るために、本来の生徒と向き合う時間がなくなるとか、そういうことがないようにと、考えております。

議長／樋渡市長

樋渡市長／再三、申し上げておりますが、もともと学校の先生は負担が大きいんです。

例えば、県の教育委員会にださなければいけないペーパーだとか。

あるいは、研修ですよ。

多すぎ。

市の教育委員会に出すものも多いし、非常に気の毒です。

これを合わせて、われわれとしては、いろんな対策を進める上で、学校の先生がお見えになってますが、負担を減らす。

子どもに向き合う時間、学校にきちんといる時間を、体制的に、もう一回見直そうと思っていますので、大きなきっかけになればと思います。

いずれにしても、再三申し上げておりますが、全体の事務作業量を、抜本的に見直さないと、学校の先生たちは負担が大きすぎて、学校をまわっていると、すごく思うんです。

学校の先生の負担が子どもたちに伝播しているのは否めない事実ですので、徹底的にやっていきたいと思っています。

議長／10 番 古川議員

古川議員／市長の力強い、改革の言葉をいただきました。

先生方が子どもに向き合う時間が少しでも増えるように、お願いいたします。

小学校から、タブレットを使うわけでございます。

例えば、小学校の3年生が今、現在、使っていると。

4月からその子4年生になる。

今まで使っていた者を持ち上がるのか、それとも、昨年、4年生が使っていたものを使うのか。

そこら辺を、お尋ねをいたしたいと思いますが、私は、3年生のときに使いよった、タブ

レット、そのまま4年生に持たせる。

そしたら、毎年、人数が変わりますね。

大きな学校は変わるかわかりませんが、小さなところは10年くらいの増減があります。

そしたら、新しくそろえないといかんのもあるだろうし、また、その変わったということもあると思います。

これは、武雄市の財源を使って購入しますので、なるべくならば、持ち上がると。

小学校6年間、使うと、同じものを。

それが良いと思います。

それが、ものを大切に使うという精神にもつながると思いますが、いかがでしょうか？

議長／代田教育監

代田教育監／古川議員、貴重なご意見ありがとうございます。

配られた、タブレット、どのようにするかは、これについては、4月までに教育委員会で検討し、決定したいと思います。

非常に古川議員の視点は、素晴らしいので、そういった皆さんの貴重なご意見をいただきながら、どうしたらよいのか、考えながら決定したいと考えています。

議長／10番 古川議員

古川議員／4月にタブレットが配布されますが、今後、配付されるまでの手順、配布されたあとはどうなるのか予定があったら、ご説明をいただきたいと思います。

議長／代田教育監

代田教育監／今後のタブレット端末の導入のスケジュールですが、今、決まっていることを申し上げたいです。

タブレット導入決定に関しては、タブレット端末導入選定委員会があります。

実際にタブレット導入選定には、ICTに関した有識者だったり、市内の学校の関係者、また、保護者の対象、教育委員会等で構成し、その選定委員会で決まる形です。

その上で、プロポーサルを受けます。

スケジュール的には、1月の下旬には選定委員会でプロポーサルを審議し、決定し、3月末までには納品するので、4月からには使えるようなスケジュールで考えています。

議長／10番 古川議員

古川議員／子どもたちが、武雄市の小学校の子どもたちが、非常にタブレットを使って楽しく授業しております。

我々もそういう時代に生まれれば良かったと、素晴らしい授業を受けられたら楽しくなったと思うが、もうおそかと言われますが。

教育の部分はそれくらいで、次に入りたいと思います。

11月17日に、佐賀新聞の論説に興味深い記事を見つけました。

その一部ですが、新聞の記事は小さいですが。

知・徳・体のバランスが必要であり、正しく食する習慣がまず、先にあるべきだと。

いつのころからか私たちは食育をないがしろにして、食育よりも体育、体育よりも知育、という価値観にとらわれがちでした。

これ、改善があったんですが、私、正解だと思います。

やはり、食べることは1番だと私は考えます。

そこで、武雄市教育委員会では、5校時給食を実施されています。

5校時給食の意義について、説明をお願いします。

議長／浦郷教育長

浦郷教育長／昨年度、今年度、5校時給食というで取り組んでいます。

ずいぶん、食育を進めてきているつもりですが、以前、小学生、中学生、朝食をとってきたかと聞くと、90%前後であります。

いろんな理由がありますが、1つ、長所だけとりましても、そういうこともございます。

それから、食育基本法をはじめ、いろんな法の整備もなされました。

指導要領等にも書いてあります。

武雄市においても食育課のほうで生涯教育の観点からで教育に進めています。

児童生徒に食育のあり方として、どうしたら、協力に進められるか考えたら、5時間目の給食の時間を5校時と位置づけて、発達段階に応じた指導ができるんじゃないか。

栄養教諭という制度もできたので、その先生方を中核にして、食育の指導がさらに教科でやるのではないかとということで、そのため、5校時給食を始めています。

議長／10番 古川議員

古川議員／私は、文科省が授業時間の確保ということを強く言っておるわけでございますが、5校時に1時間、給食の時間をその1時間を取りますと。

週に月火水木金、5時間増えます。

そういうことと聞いていたが、今、教育長の答弁でそれじゃないということで、わかったわけでございますが、では、5校時給食で、どのようなことをしておられるのか、その内

容といたしますか、教えていただきたいと思います。

議長／浦郷教育長

浦郷教育長／5校時給食では、先ほど言われましたように、授業時間数にはカウントしていません。

時間使用の中で、5校時を給食ということでしているわけです。

内容としては、これまで言われていますが、マナーですね。

学年に応じた指導として、学年なりのマナー、あるいは、衛生に気を付けようとか、あるいは、郷土の味に触れようとか、あるいは感謝して食べようと。

それを月々の目標を決めまして、それを学年に応じて指導していく、ということで今、各学校、給食の時間ご覧いただきますと、校長先生はじめ、全職員で指導にあたっているというような状況でございます。

特に、食につきましては、やはり家庭と連携しての取り組みになりますので、家庭との連携。

また、武雄の場合ですと、学校に非常に協力いただいておりますので、そういう場所をとれる野菜の活用とか、生産者との交流とか、あるいは、地場産をできるだけ活用できるように栄養教諭の先生に協力をしていただいていると、具体的な内容としてはそういうことになっています。

議長／10番 古川議員

古川議員／私が、給食のときにおうかがいしたとき。

気になることということがありますので、ちょっと質問をします。

子どもさんの箸の持ち方が非常になんか、変なんです。

ちゃんと持っている子どもさんもいます。

変な持ち方をした子どもさんもいらっしゃいます。

ちゃんとして、食べるのが基本でございますが、学校では箸の持ち方についての指導はどのようにされていらっしゃいますでしょうか。

お尋ねをいたします。

議長／浦郷教育長

浦郷教育長／確かにですね、箸の持ち方、よくできない場合もあるわけであります。

先ほど申しましたように、学年段階によって目標をもって指導するなかで、より低学年のうちに、箸の持ち方については、指導をしているところでございます。

マナーとしてもそうですし、あるいは、箸の持ち方によって食べやすい、食べにくいというのも出て参ります。

低学年の学級活動等でも、あるいは、給食時間ももちろんですが、総合的な学習総合の中でも出てきます。

そのあたりも、意として、5校時給食を設定しているところです。

議長／10 番 古川議員

古川議員／5校時給食のときに指導ということですが、いろんな武雄市内でもイベントが行われています。

食育課では、食育の箸の持ち方のマナーといいですか、そのような部分に気付いたことはございませんでしょうか。

議長／蒲原こども部長

蒲原こども部長／どうもすみません、手間取りまして。

食育課のほうでは、武雄の食育寺子屋実行委員会さんにもご協力いただきまして、いろんなさまざまな場所で、食育の啓発を行っております。

これは、先日栄養バランスをされた食育構成とか、食事や年間行事の密接な結びつきなどが、認められまして、和食がユネスコの無形文化遺産に認定されました。

私たちが慣れ親しんでいる和食文化は、お箸の、先ほど議員さんからお箸の持ち方ということで、御指摘ございましたが、お箸の文化がございまして、後世に残したい食事の作法だと思っております。

いろんな場所で啓発しているわけですが、子どもたちがわかりやすく食育を啓発するために、教育実習生の協力も得まして、テーマを決めたポスターを製作しております。

これは、手の洗い方についてテーマにしています。

これは、お茶碗の持ち方をテーマにしたものです。

これは、先ほどから出ております、箸の持ち方、箸のマナーをテーマにしたものです。

こういったものを、各学校では食事のマナー指導にご掲示していただいて活用しているところです。

その他にも、これは、子どもたちとか親を対象にいたしまして、食育まつりのなかで、お箸を作ったり、ゲームをしたりしてマイお箸作りなど、楽しみながらお箸の使い方を学んでいただきました。

その他に、毎年6月に父の日企画をしております。

お父さんと一緒にうどんづくりをします。

その中で、お箸を使った遊び道具、親子一緒にゲームをして、お箸で豆をすくいあい、そ

ういったゲームをしながら、楽しくお箸の使い方を学んでいただいています。
箸を正しく持つことで、食事をするときの姿勢も良くなると言われていますし、食事のマナーといいますのは、周りの人に不快感を与えない食事をする事。
要は楽しむためのものだと思います。
今後とも、お箸の使い方にかぎらず、食事のマナーについて機会を捉えて、啓発したいと思います。
どうぞ、よろしくお願いします。

議長／10 番 古川議員

古川議員／いろんなイベントの毎に箸の持ち方、茶碗の持ち方と、ご指導いただいているということですが、学校と一緒にしまして、1人でも少なく、ちゃんと持てるようにご指導をお願いします。
それと同時にえんぴつの持ち方なんです。
実は、先日ですね、武雄北中と、武内小学校と、武内保育園と、3カ所見に参りました。
そして、校長先生が許しを得まして教室をまわったんです。
約3割くらいの子どもが、えんぴつの持ち方がおかしいです。
回ってみて、こんなに多いとは私、思っていなかったです。
しかし、非常に多いです。
えんぴつの持ち方というのは、どのように指導をされているのか。
まず、お尋ねをいたします。

議長／浦郷教育長

浦郷教育長／低学年の教科書にはえんぴつの握り方を含めて指導するようになってます。
だいたい、えんぴつの持ち方が、完成するのは7歳くらいだろうとされています。
それで、ご覧になったのは何年生かわからないですが、4年生となると遅いかも。
1番多いのは、親指でこう…。
もっと早く持たせたときに、例えば、指の力などについての研究もあるようですが、その、7歳ぐらいのところできちんと指導していくと。
低学年の間で、そういうことをやっているんですが、習慣づけないとなかなか直らない。

議長／樋渡市長

樋渡市長／私はこれが家庭の出番だと思います。
こういうことを小学生だと、なおらないです。

これこそ家庭の問題だと思いますが、今の親御さんだとできないかもしれないので、これこそおじいちゃん、おばあちゃんの出番なんです。

近くに、家庭にいなかったら、議員さんなどもいるので。

みんな箸の持ち方大丈夫ですよ。

ですので、それこそ僕は、2世代上の方の出番だと思います。

教育委員会と見解が違います。

学校教育ではなくて、これこそが、社会教育、家庭の場だと思います。

議長／古川議員

古川議員／家庭ですべきことですが、それが、できていないということでございます。

保育園で園長先生にお伺いしたときには、えんぴつを持つときに、あまり早く持たせると、力がないから、親指が回ってくると。

一番最初に持たせるときに、早く持たせないほうがいいという話でした。

それで、親としては早く持たせたい、早く書かせたいということなんだろうと思います。

北中で、校長先生とお話をしていて、こうやって持ちますと、結局芯が見えないんだそうです。

重なって。

それで、横から見るんだそうです。

姿勢も悪くなる、目も悪くなるという連鎖反応が起こるということも聞きました。

姿勢を正しくして書きましょうといっても、手が直らんと、姿勢がまっすぐにならない。

市長が言われるように、持ち方は家庭でちゃんとさせるべきだということは、十分わかって、質問しています。

今、幼保小連携、小中連携とか、言われます。

その中で、少し考えたかどうかと思いますが、いかがでしょうか？

議長／浦郷教育長

浦郷教育長／箸と鉛筆のところにちょっと時間を取りますが、借りてまいりました。

例えば、お箸で考えますと…。

見えますかね。

考えますと、人差し指で、鉛筆も箸も動かすわけですので…。

人差し指で出す。

言いたいことは、この箸の1本を取れば、えんぴつと同じ。

そういうことで取りますと、鉛筆の使い方になるわけです。

そうということで、1つは、先ほど箸のとき言いましたが、3回のうち2回は家庭。
しかも、給食はどれも少ない。
これはやっぱり家庭と一緒に進めないといけないことだと。
えんぴつについては対応策、長い間にいろいろ研究されていることもございますので、いろんな取り方で、指導をしていくことが大事だと思います。
最後におっしゃいましたけども、今、市内の学校は腰骨をたてましょうということで、実用教育をかなりの学級、学校で取り組んでいます。
やはり、姿勢から良くすることも大事だと考えています。
そういう意味で、幼小中の連携も同じ考えで進めていくということで、進めていきたいと思っています。

議長／10番 古川議員

古川議員／私ですね、なんともなしに、テレビを見ていました。
教育テレビだったと思いますが、習字の先生が、鉛筆の持ち方が悪い。
どうやって直すか、という話をしてられました。
これはですね、ちゃんと持たせます。
そして、5cm ぐらいの円をやるわけですね。
これを1カ月くらい続ければ直りますよ、ということを言われておりました。
興味深いと思って見ていましたが、ペンを持ちますと、これが動かないんだと。
手首が動かないから、ひじが張る。
姿勢が悪くなるという、そういう連鎖反応が起きると言われていました。
鉛筆の持ち方が悪い人は、円を描いて練習をしてみてください。
直るかもわかりません。
教育問題はこの程度にいたしまして、次の、飛龍窯祭りについて、お尋ねしたいと思います。
私の出身地である武内で毎年行われるわけですが、来場者が、多くて、武雄市の一大イベントとなってきた飛龍窯灯ろう祭りですが、これまでの実績をふまえて、今年度開催について、どのような計画をお持ちなのか、お尋ねをいたします。

議長／溝上営業部長

溝上営業部長／武雄の冬のイベントということで、定着をしてきました、飛龍窯灯ろう祭りについては、約4000個の灯ろうと、5万球のイルミネーションの光の祭典ということで人気を博してまして、前回は3万人以上の来場者があったそうです。
それと今回は第6回目となりますが、灯ろう祭りは来年の2月8日、9日。

土日2日間開催といたしますが、今回のイベントの目玉といいますか、大きな変更点につきましては、とにかく飛龍窯での滞在時間を伸ばすためのいろんなしかけや工夫です。

具体的に言いますと3点ありますが、1点目は前夜祭。

前夜祭は夕方から開催していますが、今回は2日間ともホンサイ(?)ということで、昼の12時から、夜9時までとイベント時間を増やします。

そして2点目は、灯籠やイルミネーションの設置エリアを拡大して、会場内の回遊できるスペースを開きまして、見所を増やします。

それに伴いまして、灯籠の数も昨年の4000個～6000個へ増やします。

そして3点目といたしましては、2日とも昼間からの開催になるので、イベントといたしまして、先ほどの武雄の達人たち(?)による体験コーナー、プロムタのモノハヤマ(?)観光ツアー、そういう特色あるイベント企画いたしまして、来場者に楽しんでいただけるよう準備を進めているところです。

議長／10番 古川議員

古川議員／今年2月、9、10日の2日間開催されたわけでございます。

1番、目立ったところというのは、駐車場の混雑、シャトルバスの渋滞でございました。

たぶん、私、考えると100%どうのこうのは無理なんです。

すべてのみなさんに満足していただくのは無理ですが、去年は、シャトルバスが両方から結局ですね、ぶつかるといって、移動ができなくて相当な間、車ができなかったことがございました。

その対策なり、どのように考えておられるか、お尋ねをいたします。

議長／溝上営業部長

溝上営業部長／シャトルバスにつきましては、前回も増便をして対応しましたが、どうしても一定時間にお客さんが集中するので、混乱をまねていたでございます。

反省点をふまえて、今回の開催からシャトルによる送客方法を考えまして、基本的に会場周辺ではなくて、武雄温泉周辺から、集客する方法に変えていきたいと考えています。

駅周辺に駐車場を確保いたしまして、お客さんにはできるだけJRを利用してもらうか、車の場合も、駅周辺の駐車場を利用していただけよう、広く周知して待ち時間の効率化をはかっていきたいと考えています。

これまでどおり、車で来られるお客さんも多いかと思われますので、そういう場合は今度出来ます新武雄市公民館の駐車場の活用を含めまして、これまでの駐車場も確保して対応する予定です。

ということで、シャトルバスの台数につきましても、今回、大型バスを前回は6台でし

たが、今回、3台増大して大型バスを9台、そして市役所のマイクロバス3台。

合わせて12台体制で送迎を企画しています。

特に大型バスも通常のバスでなく、ワンマンタイプの大型バスを利用する予定です。

併せまして、会場周辺での案内や交通移動で配置していたが、警備さんや係員の配置を早めて、そういう形で受け入れ体制の強化を図って、少しでも混雑解消に努めて参りたいと思います。

議長／10番 古川議員

古川議員／道路の件でございます。

3月議会のとき、西の角の三差路(さんさろ)のかどきりは、できないものかというお願いをしておりましたが、現在の進捗状況についてお尋ねをいたします。

議長／森まちづくり部長。

森まちづくり部長／この交差点につきましては、今、パワーポイントのほうで表示しておりますけれども、武雄のほうから伊万里へ行く道路のほうから、飛龍窯のほうへ入っていく市道黒牟田線のT字路になった交差点のところでありまして、この分につきましては、道路の幅が狭くて、特に一般通行はもとより、飛龍窯の…。

あ、すみません。

写真で見ますと、このような状態になっています。

今、飛龍窯へ入る、あるいは出てくるときに狭くて、混雑をしていることで、シャトルバスの運行にも支障をきたしているというふうなことで、交差点の改良が望まれていましたが、古川議員さんのご尽力によりましてですね、地権者からおおむねの同意を得られたということで、交差点の改良を今、計画をしているところでございます。

議長／10番 古川議員

古川議員／改良ができるとのことでございますので、1日も早い改良をよろしく願いいたします。

これも、3月議会をお願いしておりましたが、会場周辺にイノシシが出没しまして、ボコボコになすわけでございます。

祭りのときは提示をしますが、もう、先日もイノシシがおりまして、ボコボコでございます。

このイノシシ対策もお願いしておりましたが、今、どのようになっているのか、お尋ねいたします。

議長／溝上営業部長

溝上営業部長／飛龍窯周辺にも、結構、イノシシが出没していて、安全対策上の問題がございました。飛龍窯の指定管理者でございます、キルンの森運営協議会を中心に、地元、武内町民の区長会をはじめ、武内町民の方、皆さまの協力を得まして、2日前になりますが、12月7日に140名以上の方に協力をお願いをしまして、公園の周囲500mにわたりまして、ワイヤーメッシュの設置をしたところでございます。

おかげで、灯ろう祭りも安心して開催ができますので、地元の皆さま方のご支援に心より感謝を申し上げます。

議長／10番 古川議員

古川議員／ワイヤーメッシュをはっていただいたということで、イノシシも入ってこないと思います。

そこで、祭りを活性化させるために、地元の協力体制など、どうしても必要になってくるわけでございます。

その、協力体制は、どのように考えておられるか、お聞かせいただきたいと思います。

議長／溝上営業部長

溝上営業部長／これまでの灯ろう祭り開催に向けては、地元武内町の区長会、自治公民館長会、そして体育協会をはじめ消防団、あるいは各種団体の方々から会場の設営などの準備から片付けまでご協力をいただいております。

また、婦人会やボランティア若葉会、また、JA武内女性部の皆さんには、会場設営の際の炊き出しから、お祭り当日も出店してもらうなど、支援をいただいております。

これ以外にもですね、武雄高校野球部の皆さんには、ボランティアで灯籠の回収を手伝ってもらってますし、また、地元の武内小学校、ステージイベントではですね、武内小学校の和太鼓の演奏、武内保育園の阿波踊り、そういうものを披露していただいております。

このように飛龍窯灯ろう祭りでは、地元の皆さんの協力無くしては成功いたしません。

今回もまた、灯籠の数も増えてますけれども、そういう、ろうそくの設置など、作業をお願いするわけですが、今後も地元の皆さまと連携を深めることが祭りの活性化につながるかと考えております。

今後も、地元の皆さんと一緒に、武雄の冬のイベント、または、冬の風物詩ということで一緒に育てていきたいと考えております。

議長／10 番 古川議員

古川議員／とりあえず寒い時期でございますので、その大変なんです、今年も今年度の祭りが来年の2月の8、9ということでございます。

多くの皆さんにおいでいただいて喜んでもらえるよう武内町といたしましても努力をするつもりでございます。

御船が丘小学校の皆さんも今、同場に見えておりますが、お父さん、お母さんと一緒に、ぜひ飛龍窯祭りにおいでいただけますようお願いをいたしまして、私の一般質問をこれで終わりたいと思います。

どうもありがとうございました。

議長／以上で、10 番 古川議員の質問を終了させていただきます。